

635CSi



BMWクーペ: 理性と感性の絶妙なバランス。

緊張した手でハンドルを握り、初めて車を走らせた時の感激。それはいつまでも消えることのない思い出です。たとえ、それがあきたりの車であったとしても、ドライビングによって満喫できる自由や伸びやかな感覚は、しっかりと記憶の中に刻まれているのではないのでしょうか。

もちろん、人生経験を深め、本物の価値を知るほどに、車に対する要求はレベルアップしていきます。自らの価値観やライフスタイルにふさわしい資質を、車に対しても求めたくなるでしょう。こうして、車であれば何でも良かった時代に、別れを告げる日がやってきます。この頃になれば、流行に影響されることもなく、表面だけのステイタスにこだわることもなく、自分の望む車の姿がはっきりと見えてくるはずですよ。

『スタイルと機能が完璧に調和した車、時を超えた優美なスタイリングに、最新のテクノロジーを内包し、移ろいやすい流行とは一線を画した車。そして、能動的な安全性と受動的な安全性が高いレベルで結び付き、性能面においても他車を凌駕する車。』これこそ、経験を積んだ方が心に描く最高の車、つまり究極のクーペです。

BMWはクーペに対して、特別な考え方を持っ

ています。それは『最先端のテクノロジーを投入しながらも、決して車を冷たい知識の産物にはしない』というものです。BMWが創り出すのは、ドライバーが明確なスピリットを感じ取り、ドライビングの歓びを味わうことのできる車。それは理性と感性の絶妙なバランスです。そして、この考えは具体的な形となって、BMWクーペに投影されています。

エレガントなボディの内部には、先進のエンジン制御システムを搭載し、静かで洗練された走りを発揮します。また、悪路でもスムーズに操作でき、躍動的なパフォーマンスを享受させてくれます。インテリアもいわゆる“スポーティーカー”の窮屈さとは異なり、上質の素材をふんだんに使用し、広く快適な空間を実現しています。知的な資質に力強いパフォーマンスを結び付け、限らないドライビングの歓びをもたらすBMWクーペ。それは、様々な車と出逢い、経験を深めた果てに到達する、理想的なモータリングの世界です。

モータースポーツの莫大な成果を投入。

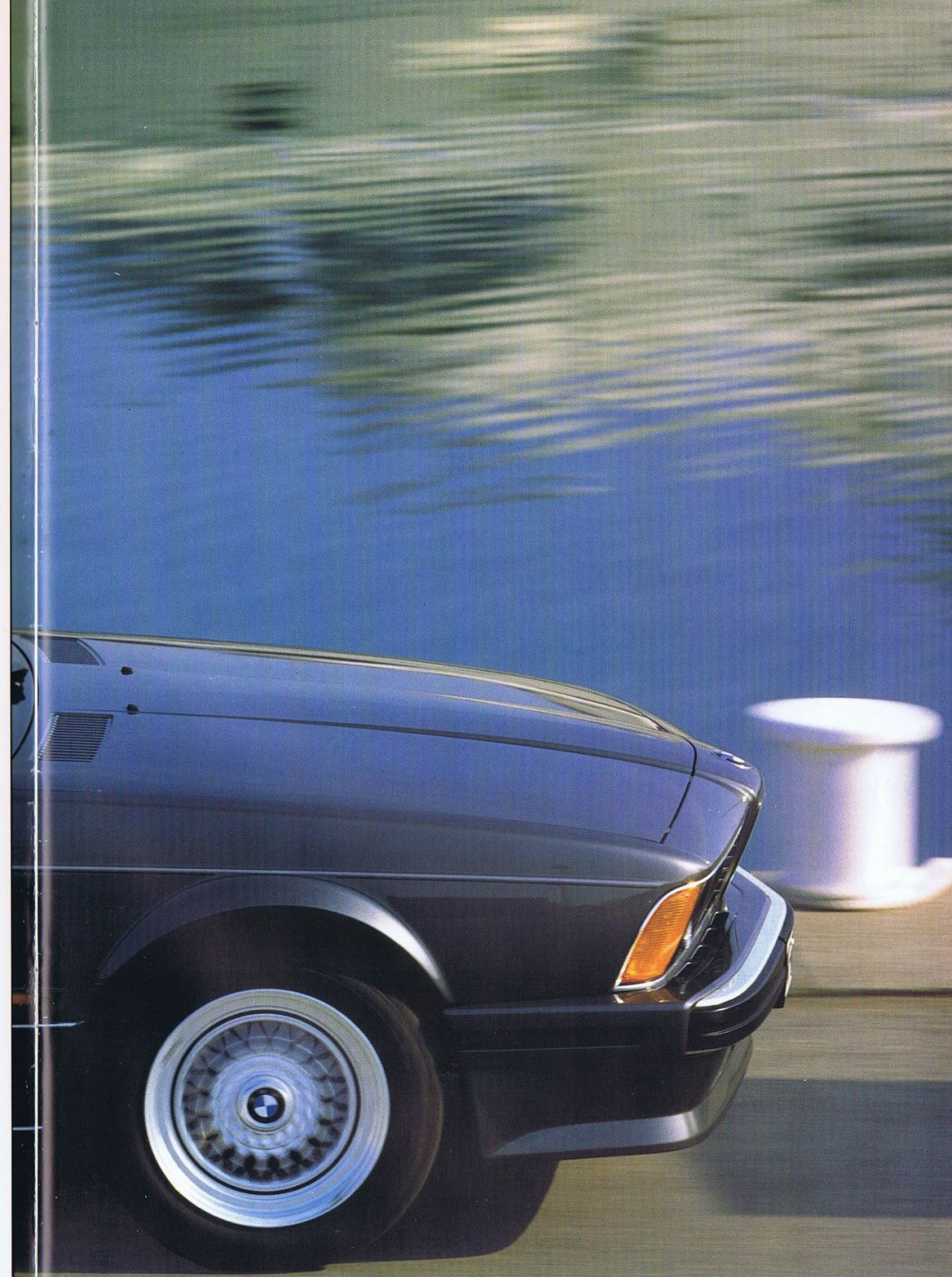
BMWクーペは、過去50年以上にわたってヨーロッパ各地のレース場でBMWが成し遂げてきた数々の成功を受け継いでいます。この車に搭載された直列6気筒エンジンが誕生し

たのも、これらのレース場においてです。コンピュータ制御の直列6気筒エンジンは、世界で高く評価されているサスペンションと組み合わせられ、ワインディングロードやタイトコーナーなど、いかなる道路条件のもとでも、その実力をいかんなく発揮します。

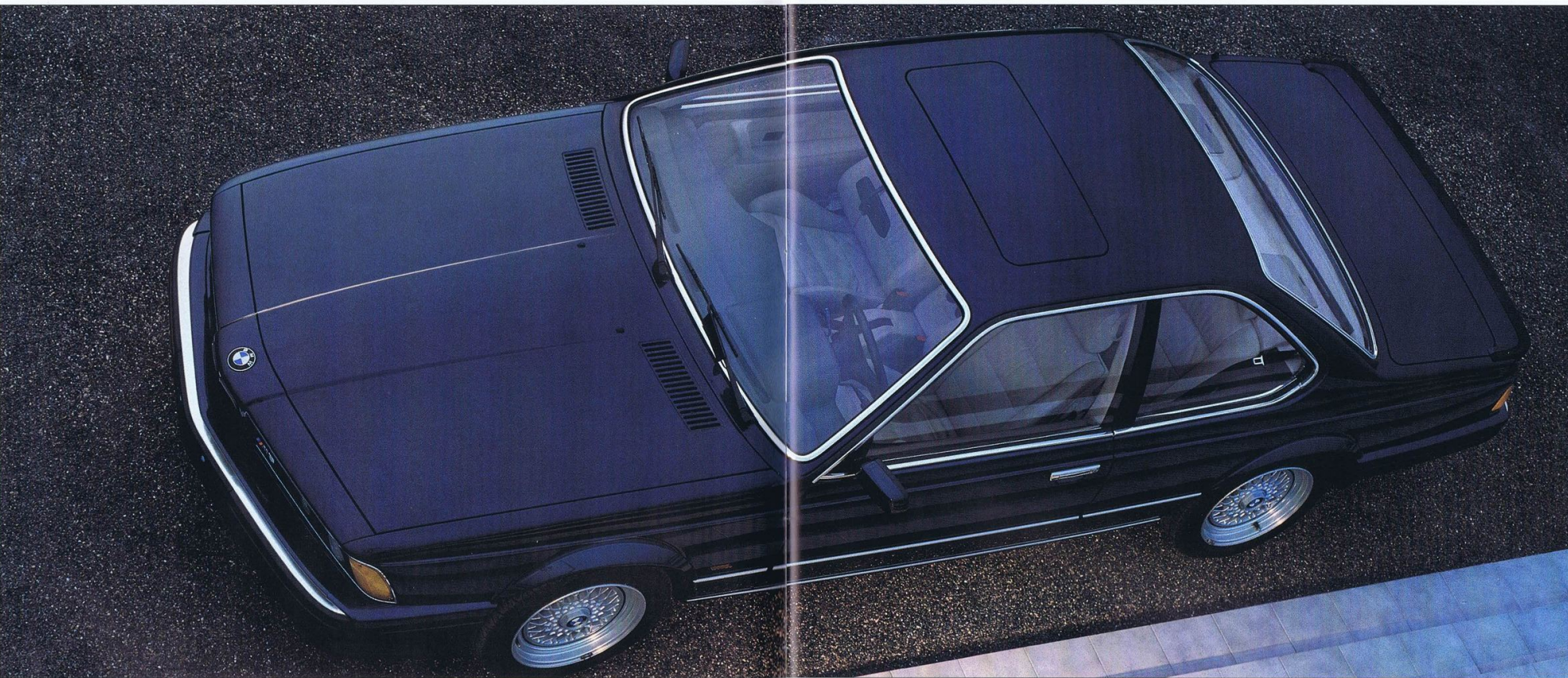
モータースポーツへの参戦から生まれた数多くの革新的技術を、市販車にフィードバックするBMWコンセプト。たとえば、BMWクーペの優秀性は、市販車に最も近いグループA規格の中で競われるFIAヨーロッパツーリングカー・チャンピオンシップでも証明されています。この伝統あるヨーロッパ最大のツーリングカー・レースで、BMW635CSiグループAが、3度目の勝利として1986年のチャンピオンシップを獲得しました。

モータースポーツの世界で築いたユニークなドライビング性能。多くの著名なドライバーたちは、ある自動車雑誌の言葉を借りてBMWクーペをこう評します。『ただ一台の最も格調高い車のみに与えられた感覚である。』

本カタログ中の記載及び写真には日本仕様と異なるものもあります。
また、一部オプション、特別注文も含まれます。







動き始める前から心を高揚させる、 静かなるモータリングの美学。

自分に最もふさわしいクーペを見つけ出すには、明確な基準を持つ必要があるのではないのでしょうか。それは、4ドアのセダンを選ぶより、遙かに難しいことかもしれません。スタイリングに対する美的感覚を持ち、卓越した性能を見分ける

ことから、クーペの選択は始まります。

現代ドライバーが選ぶ、 未来の“クラシックカー”。

現代性と伝統性、このふたつの要素をBMWクーペは兼ね備えています。そして、それは時

代を超えたエレガンスを感じさせます。BMWクーペは不要な装備を持たない、均整のとれたプロポーションを見せています。洗練された外観の車であると同時に、効率と信頼性を徹底的に追求したBMWクーペは、華麗さと実用性を見事に調和させています。

様々な機能を高度に統合し、それを磨き抜かれたスタイリングの中に内包させる。BMWはこの困難なテーマに対して、歴史の中で見事な解答を出しています。これまでもBMWクーペは、完成度が高いスタイリングの見本となってきました。現在、BMWクーペは世界的に著名な、2つのモダンアート・ミュージアムに展示されています。

また、BMWクーペは最後のクラシックカーのひとつであると言われる。この“クラシックカー”という言葉は、どこか時代遅れの車を思わせませんが、BMWクーペが備えているのは、これと正反対の資質です。それは、そこに注がれた技術力を見るだけで、自動車工学の最先端を知ることができるほどの先進性です。不朽の古典とも言えるほど磨き抜かれたスタイリングの中に、前衛的な

技術力を秘めたBMWクーペ。単に表面的なステイタスではなく、自らの主張と個性的なライフスタイルにふさわしい車を求める方のためのクーペです。

入念な設計によって、 最適な装備を設定。

BMW635CSiのどの機能を見ても、偶然的な産物はありません。すべての装備類はあるべくして存在し、あるべき形をとっています。たとえば、フロント・スポイラーや小型で効率の良いリヤ・スポイラーは、徹底的な風洞実験でテストされ、空力特性とロード・ホールディングを確実に向上させることに成功しています。これはBMW635CSiのように、高度なパフォーマンスと走行能力を持つクーペには、欠かすことのできない要因なのです。

また、フロント・スポイラーはあらゆる状況下で、ブレーキの冷却に最適なエアを供給します。そのため、BMW635CSiは常に効率の良い制動力を発揮します。

復元機能を持ったバンパー・システム。

フロント・スポイラーの上部には、新開発のバンパー・システムが装備されています。これはショック・アブソーバーを内蔵しており、低速での衝撃、たとえば時速4kmまでの衝撃に対して、復元機能を発揮します。混雑した市街地などで駐車する際に、大きな安心を提供するシステムです。

数多くの最先端テクノロジーを投入。

ヘッドライトに、新型の楕円型反射鏡を採用し、視界がさらに広がり、運転しやすくなっています。この新しい反射鏡は従来のパラボラ型とは異なり、光を路面に直接投射します。また、ライト自体の明るさが増し、光の境界もより鮮明になっています。

この新型ヘッドライトは、濃霧時に光が拡散するのを防ぎ、対向車への眩惑も最少限にしています。さらに楕円型反射鏡はフォグランプにも採用されており、走行安全性を大きく向上させています。

スマートなエンジンルームに収められたパワーユニットは、BMWのエンジン・テクノロジーの水準を示すものです。ガス・スプリングで支持されたボンネットが滑らかに開くと、定評ある高性能直列6気筒エンジンが姿を現わします。アロイ・ホイールを付けたワイド・タイヤは、そのエンジンの高性能を十分に引き出すためのものです。

また、BMW635CSIのウインドーは緩やかに傾斜しており、真夏の強い日射しに照らされても、車内は快適な温度に保たれます。標準

装備のグリーンの遮熱ガラスによって、さらに車内の快適さは高められています。

少量生産による高品質の維持。

BMWはたとえ少数であっても、本物の価値を知る方々のために吟味した車を生産することで、高水準のクオリティを保ってきました。一点の傷すらも見逃さない入念な仕上げと、オー



楕円型反射鏡：さらに向上した視認性。新開発の楕円型反射鏡によって、従来よりも広く、境界が鮮明な照射に成功。より明るくなったヘッドライト

は対向車を眩惑することがなく、ドライバー自身も照り返しに悩むことがない。この楕円型反射鏡の技術は、ヘッドライト（ロービーム）とフォグランプに採用。

ルラウンドな卓越性は、他の追随を許さないレベルに達しています。

控え目なスタイリングが象徴する、BMWの理念。それは、過去から未来まで常に変わることなく、機能性を最重要視するというものです。



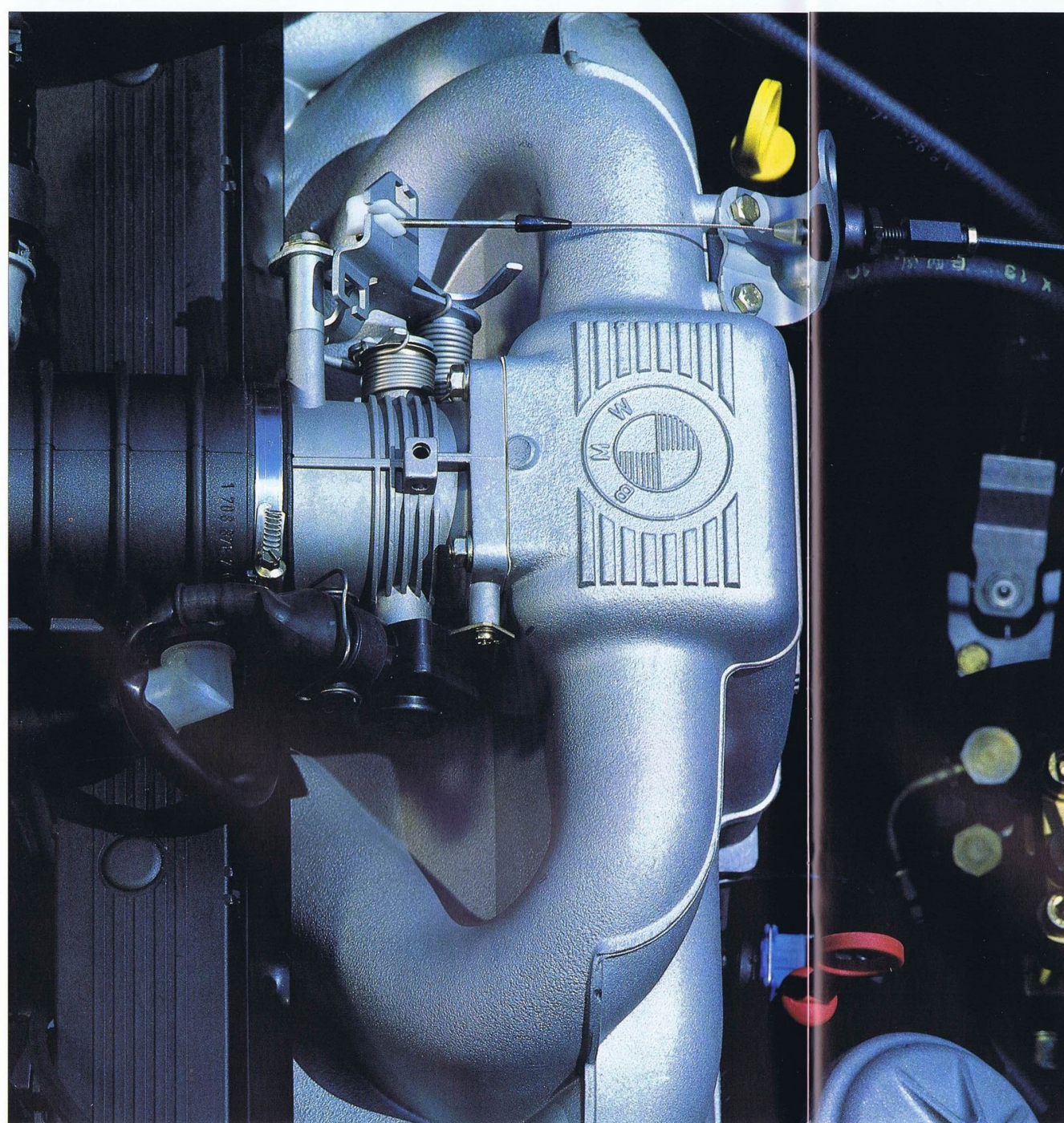
バンパー：さらに信頼を増した安全性。全体のスタイリングに見事に調和した新型バンパー。一体化されたショック・アブソーバーによって、乗客

および車自体を保護。万一の衝突の際にも、ボディの損傷は最小限に。

サイズや重量にとらわれることなく、真にダイナミックで俊敏な操作性の実現を。これが、BMW数十年にわたって維持してきた原則です。そして、その原則を最も明確に体現しているのが、BMW635CSIなのです。

このクーペの磨き抜かれたスタイリングは、オーナーのテイストの良さを表わすだけではありません。それは、そのエレガントで滑らかなラインを見つめるだけで、ひとつのアートと出逢ったような感動を呼び起こすほどです。動き始める前から心を高揚させる、静かなモータリングの美学が、ここにあります。





外観は強固なメタルの輝き、 感触は滑らかなシルクの様に。

BMWのエンジンは、世界中で高い評価と称賛を集めてきました。BMW635CSiに搭載された直列6気筒エンジンについても同様です。世界のジャーナリストはBMWの直列6気筒エンジンが生み出す抜群のパフォーマンスに、これまで幾度となく、そして惜しみなく賛辞を贈ってきました。このエンジンが提供する総合的な特性は、ひとつのカルチャーを創り上げたと言われるほどです。

洗練のBMWエンジン・テクノロジー。

BMW635CSiエンジンは、つい最近まで二者択一でしか実現できなかった高度な技術を、組み合わせることに成功しました。強力でありながら、実に静かなエンジン。瞬時に回転数を上げることができながら、不快な振動とはまったく無縁です。

ダイナミックで、しかも経済効率の良いエンジンは、常に最高を求めるBMWのコンセプトを母体としています。実際のデータを見ても、以前に比べ最高出力が185psから211psにアップするなど、より強烈なパフォーマンスを生み出すことに成功しています。

3.5ℓの6気筒、優れた安定性と剛性を持ち

ノイズ発生を最小に押さえるクランクケース、7つのベアリング、そして12のカウンターウェイトによって完璧なバランスを発揮するクランクシャフト。これらを統合することによって、始動時から絹のように滑らかな回転が生まれます。

もちろん、燃焼室、バルブ、インテーク・マニフォールド、エキゾースト・マニフォールドに関しても、素早く、またダイナミックにシリンダー・チャージが行われるように設計されています。たとえば、インテーク・マニフォールドには十分な長さを与え、混合気の流れを最適な状態に保ち、燃焼室までスムーズに効率良く充填し、理想的な燃焼が行われるようになっています。

BMW635CSiのエンジンは、低速時の高トルク、俊敏なアクセル・レスポンス、パワーと滑らかさ、燃費の良さ、そしてクリーンで効率的な排気システムを、バランス良く実現しています。

理想的に調和した補助機構。

エンジンの補助機構も、細部に渡って入念に設計され、エンジン自体との最適な調和が図られています。

新型のオルタネータは、エンジンのあらゆる回転域で最適な出力を発揮させ、また精密に制御されたエアの流れによってオーバーヒートを防止します。これによって、エンジン自体の寿命が続く長期間、いつでも高効率を保つことができるわけです。エンジンルームのワイヤリングが整然とまとめられているため、電気系統の点検整備が非常に容易になっています。

さらに新しいスパーク・プラグの採用によって、低回転域での燃焼が一段とスムーズになり、燃費を改善しています。もちろん、スパーク・プラグ自体の耐久性も高まりました。BMW635CSiの直列6気筒エンジンは、先進的なDMEによってコンピュータ制御されます。

自己学習機能を身に付けたDME。

最新の第3世代DME(デジタル・モーター・エレクトロニクス)は、燃料の噴射量と点火時期を精密にコントロールします。

30箇所以上もの測定ポイントを持ち、ミリ秒単位での短い時間で情報を判断し、最適なエンジン制御の指令を出します。文字通り、高速にして高効率を可能にしたシステムだと言えるでしょう。

DMEは必要最少限度の燃料でエンジンが始動するよう、適正な混合率を計算します。また、DMEは常にアクセル開度をモニターしており、外気温と大気の状態を考慮しつつ、ドライバーが要求するパフォーマンスを瞬時に生み出します。

そして、この新型DMEは画期的な“知性”を持っています。それは自己学習機能と呼ばれるものであり、あらかじめ決められたプログラムを忠実に実行するだけでなく、設定データと実際のデータを比較し、修正することが

できるのです。各種の条件が変化した場合には、DMEはそれを直ちに把握し、素早く、確実に修正します。

信頼性の向上、点検・整備の簡易化。

DMEはエンジンの回転状態、負荷状態などを常に測定し、データを補正します。そのため、1,000km走ったあとでも、10,000km走った後でも、アイドル回転数が変化することはありません。

DMEはクランクシャフトが1回転する度に、エンジンの状態を確認し、外気温などの条件も測定します。つまり、最適な運転状態を確保するために、設定データを変更すべきかどうかを判断するのです。

DMEはドライバー自身が気づかない、ほんの小さな不具合までも検出し、記憶することができます。

この情報はBMW Japan Corp.正規代理店での定期点検の際に分析され、専用サービ

ス・テスター上に表示されます。DMEは点検と修理を素早く行うための、車自身に付けられた診断装置の役割も果たします。BMW635CSiには、高度なエレクトロニクス技術と、優れた信頼性が統合されています。重要な電源ケーブルは確実にボルト止めされており、不安定な状態に放置されることはありません。コネクタは3種類のみ、しかもこのエンジン専用開発されたもので、航空機のコネクタと同様に信頼性の高いバヨネット・タイプになっています。さらに、これらのコネクタは耐水型になっており、過酷な使用にも耐えるものです。BMWの開発スタッフが車の中に投入した数々の価値は、日常使用している際にも発見することができます。素晴らしい滑らかさを持ったエンジンはあまりにも静かで、時として回転計を見なければ、かかっていることが分からないほどです。

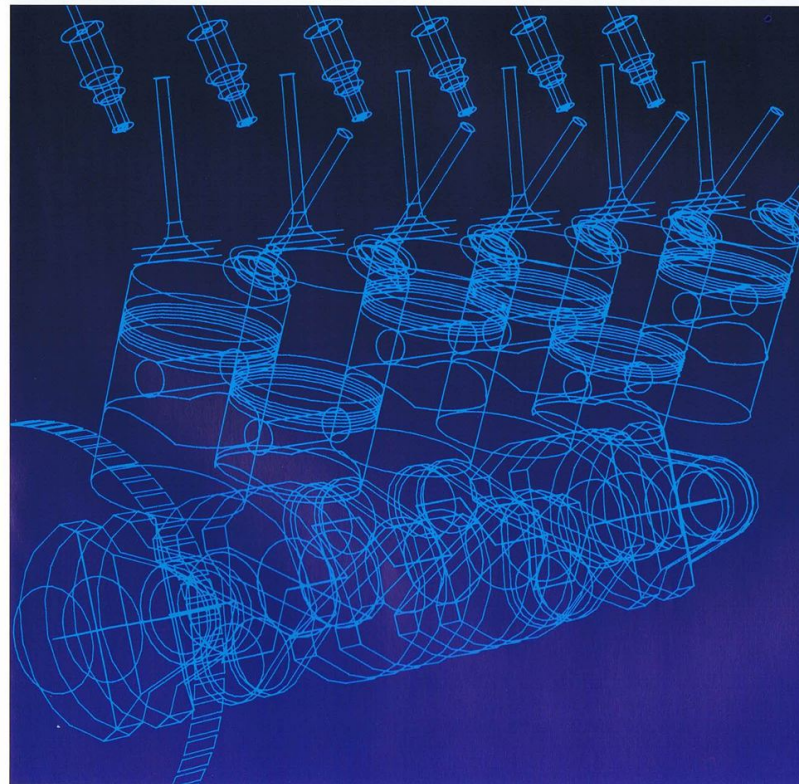
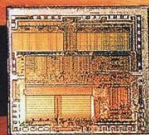
文字通りシルキーな高速回転。

BMW635CSiのアクセル・ペダルをひとたび踏み込めば、ジャーナリストが表現する“圧倒的にシルキーな吹き上がり”と拔群の“パワー”を体感することができます。電子式油圧制御システム・4速オートマチック・トランスミッションとの組み合わせは、最高レベルの効率とパフォーマンスをもたらします。エンジン自体の回転も軽やかで、あらゆる回転域で充分な出力とトルクを発揮します。アクセル・ペダルを踏み続け、ダイナミックに加速していけば、BMW635CSiのエンジンは滑らかに回り続け、最高速に到達します。

しかし、BMW635CSiは、決してドライバーに緊張を強いるような種類のクーペではありません。ドライバーを過酷な状況に追い込み、神経をすり減らさせ、限界性能に挑むことを強いるような種類のスポーツカーではないのです。その直列6気筒エンジンは、静かでリラックスした運転を楽しんでいただくための、極

めてスムーズな作動特性を備えています。ドライバーはあらゆる状況で、余裕を持って、滑らかな回転を楽しむことができます。それは、このエンジンが余裕あるパワーを備えているからです。驚異的なパフォーマンスと静粛性を併せ持った、BMW635CSiの直列6気筒エンジン。あらゆる面から見て、高い完成度を誇るエンジンだと言えるでしょう。

マイクロチップ:
0.225cm²に凝縮された知性。DMEの心臓部には、さらに精度を高めたマイクロチップを採用。部品数を大幅に減少させつつ、機能を高めることに成功。計算速度は数千分の1秒。エンジンのトルクとパワーを高めると共に、燃料カットオフ装置も改善し、燃費の向上に貢献。自己学習機能を持ったアイドルリング・コントロール・システムは、エンジン回転数の誤差を10rpm以内に制御。寒冷時の始動および暖気運転も、より滑らかに。さらに、万一の故障の際にも、エンジンの回転を保つ機能を保持。



直列6気筒3.5ℓエンジン:
ボディの中に息づく抜群の動力性能。
一目見ただけで、並み外れたパフォーマンスカーであるという印象を与えるBMW635CSi。しかも、それは単なる印象だけではない。最高出力211ps/5,700rpm、最大トルク31.1kg・m/4,000rpmの3.5ℓの直列6気筒エンジンを搭載し、際立った実力を示す。

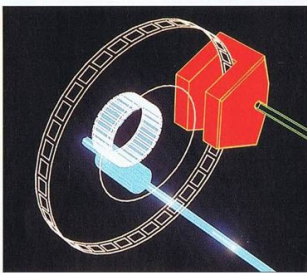
走ることの本質を極めた、 卓抜のロード・ホールディング。

通常の車は快適性かスポーツ性か、いずれかの選択を迫ります。あるいは両方を妥協させながら、両立させている場合もあるでしょう。しかし、BMW635CSiは何の犠牲を払うことなく、スポーティな操作性と、長距離ツーリングの際にも快適な居住性を併せ持っています。もちろん、その水準は車に対して厳しい要求を持たれた方を、十二分に満足させるものです。BMW635CSiに優れたトータル・バランスをもたらした要因、それは先進的なシャーシとサスペンションにあります。フロントはダブルジョイント・スプリングストラット式の独立サス

ペンションと、ツイン・スリープ型のカス・ショック・アブソーバー。そして、リヤにはセミトレーリング・アーム付きの独立サスペンションを採用。この組み合わせが、安全で信頼性の高い直進走行とコーナリング走行を実現しています。さらに、強力なアンチロールバーが前後のアクスルに装備されているため、急なカーブでも車体が大きくロールすることを防ぎます。アロイ・ホイールに装着されたVR7ワイド・タイヤは、エンジンの強力なパワーを確実に路面まで伝えます。制動システムに関しても、優れたパフォーマンスとダイナミズムに比肩する、高性能ブレーキを採用。大型の4輪ディスク・ブレーキには、アスベストを使用しないブレーキ・パッドを装着。的確な制動効果を実現し、極限状況でもフェード現象を防ぐことができます。また、ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）も標準装備しており、緊急時のパニック・ブレーキの際にも高い安全性を確保しています。

なお、正確で素早いハンドル操作を実現するために、エンジン回転数感応式パワーステアリングを採用。路面からの感触を充分に得ると同時に、楽々とステアリングを切ることができます。

BMW635CSiの卓抜したロード・ホールディングを一度でも体感されたなら、妥協を余儀なくされた車と、すべてに最高を求めた車の差をすぐに納得していただけるでしょう。



ABS/アンチロック・ブレーキング・システム：道路でのブレーキ、両輪の路面状態が異なる場合のブレーキ時にブレーキを踏み続けても、タイヤがロックされず、効果的な制動力を実現。高速走行時のパニック・ブレーキ、滑りやすい

ブレーキでも、ABSは車の挙動を安定させる。その結果、ドライバーは確実なステアリング操作で障害物を避けることが可能。



アートの域にまで昇華した、 インテリア・デザイン。

ひと昔前ならば、コックピットのインストルメント・パネルを見ただけで、その車がスポーツカーであるかどうか分かったものでした。つまり、スポーツカーのインストルメント・パネルは真つぐな面を持ち、クロームメッキの計器類と数多くの目盛が並んでいたのです。しかし、今日のスポーツ・クーペを代表するBMW635CSiは、アクティブ・ドライビングの機能性を備えた、シンプルで力強いコックピッ

トを採用しています。BMW635CSiの計器と装置は、ドライバーを包み込むように半月状にレイアウトされています。情報ユニットとファンクション・ユニットは、関連するグループごとに分類され、機能的に配置されています。速度計と回転計はアナログ式を採用し、防眩ガラスでざらつきを防ぎながら、最も見やすい位置にセットされています。この2つの計器のメーターには、水温計と燃

料計が置かれています。もちろん、夜間走行の際にはオレンジ色の照明が付くなど、人と車が瞬時に最適なコミュニケーションを図れるよう工夫されています。

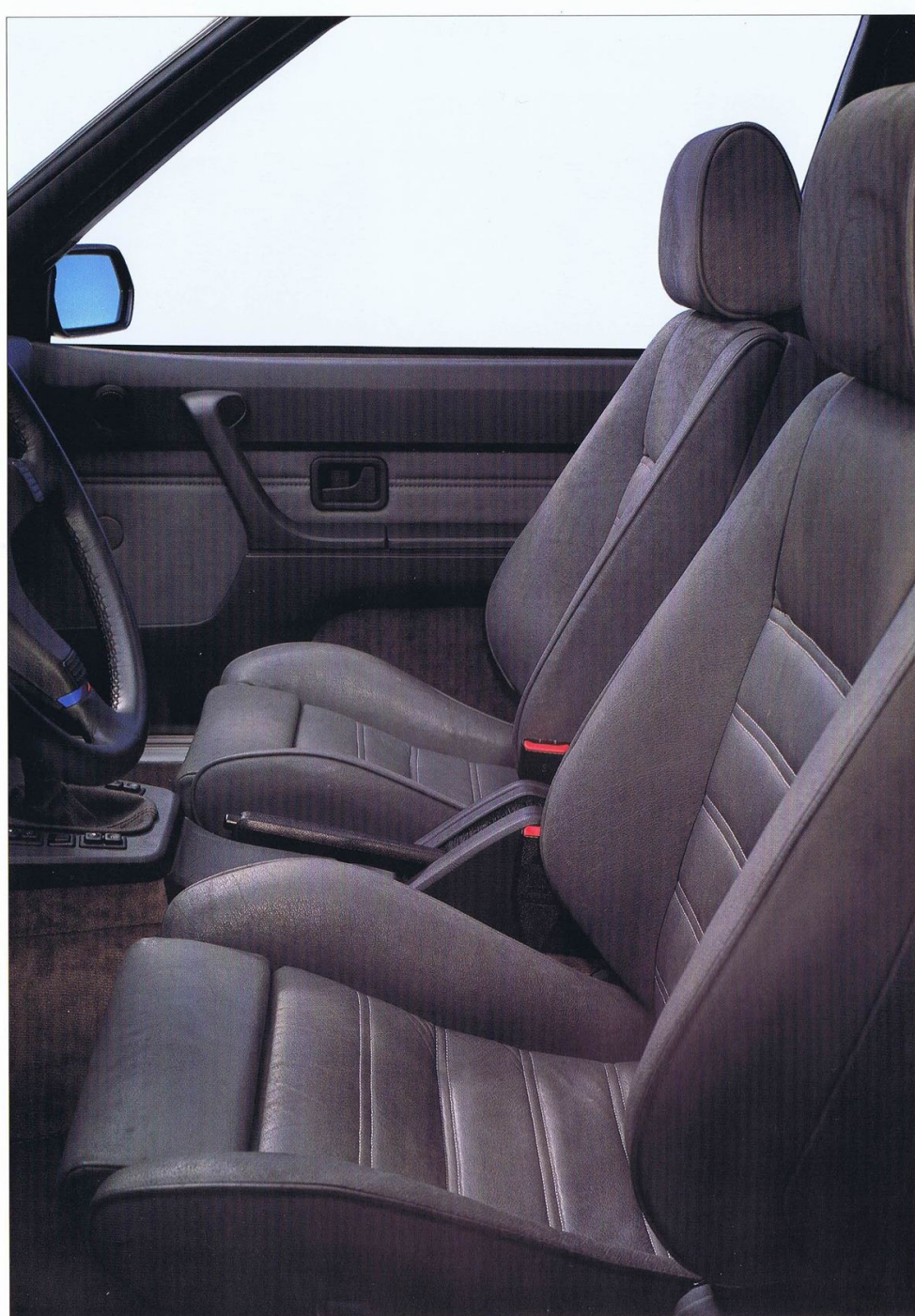
信頼性の高いエレクトロニクス装置。

イグニッション・スイッチを回すと同時に、SI(サービス・インターバル・インジケータ)が点灯します。この装置は運転状態、走行距離、前

回の点検からの経過時間などを分析し、次のオイル交換時期や点検時期をドライバーに告知するものであり、安全性と経済性の向上に役立ちます。日本では法令で定められた点検・整備時期に従う必要がありますが、この装置は有益な目安となるものです。ドライバーの左側には、アクティブ・チェック・コントロールが設置されています。発進前、さらに走行中も、この装置はエンジン・オイル、ブレーキ・オイル、ライト状態などをモニターしています。つまり、ドライバーがエンジン・オイルなどを、ボンネットを開けてチェックする必要はありません。ドライバーの右側にあるのは、エアコンディショナーのパネルです。このエアコンディショナーは風量の無段階調整ができ、ドライバーと同乗者に快適な風を送ります。オンボード・コンピュータも標準装備しています。ドライバーはこの装置を直接操作して、必

要な情報を入手することができます。さらに、ターン・インジケータ・レバーを押して、リモート・コントロールすることも可能です。オンボード・コンピュータは、外気温が凍結温度に近づいた時、早めに警告を与えます。平均燃料消費量や平均速度を計算することもでき、さらに暗証コードを設定すれば、盗難も防止します。また、車内の音響特性を考慮した、高性能オーディオ・システムを装備しています。CDオートチェンジャーも標準装備しており、トランクルームに10枚のコンパクト・ディスクをセットし、車内からリモート・コントロールすることができます。インテリアはスポーツ性と快適性が両立できることを見事に証明しています。運転席と後部座席は十分なスペースを持っており、クーペとしては稀な、ゆとりある行動空間が存在しています。ドライバーズ・シートは人間工学を研

究し、体にフィットするように設計されています。優れたスプリングとパッドリングを持つと共に、車のサスペンションと調和しつつ、悪路でも滑らかに快適な乗り心地を約束します。ペロア・シートのサイドサポートは、コーナーでも抜群の力を発揮し、ダイナミックなドライビングを心ゆくまで味わうことができます。



細部にまで注がれた入念な仕上げ。

高品質ペロアの代わりにレザー仕上げを希望される方には、2つのオプションをご用意しています。ひとつはノーマル・レザー仕上げ、もうひとつは特別仕様車に設定されたバッファロー・レザー仕上げです。後者は柔らかいパディングを施した、深味のあるグレー(シャムグレー)またはダーク・ブラウン(ハバナ)のバッファロー・レザーを採用。上質のラグジュアリー感を心ゆくまでお楽しみいただけます。

大きなゆとりを創造する特別仕様車。

BMW635CSi特別仕様車は本物のバッファロー・レザーをふんだんに使用した内装をはじめ、各種の優れた装備を持っています。熟練したクラフトマンシップと、最新の自動車工学テクノロジーが調和した、まさに特別仕上げの車です。

シートには電動位置調節機能が付いたスポーツシートを採用、さらにドライバーシートはメモリー装置を装備しており、いつでも自動的に調節することができます。このメモリー装置はシートの位置を3種類までプログラムし、記憶させることができ、複数の方が頻繁にハンドルを握られる場合に便利です。またリヤウインドーにはローラーブラインドを標準装備しており、くつろぎとゆりの空間を創造しています。

INTERIOR

快適性と安全性が高レベルで調和。

ステアリング・ホイール、セレクトレーバー・グリップにも、最上質のレザーを使用しています。ステアリング・ホイールはアジャスト機構により、リーチが調節でき、ドライバーの望む理想的な位置に設定することが可能。このため、素早く正確なステアリング操作が行えます。インテリアの洗練された雰囲気は、新しく採用されたペロア・ルーフ・ライニングによって、一段と深められています。ドアの内側はシートと同じ上質のペロアで仕上げられ、充分なパディングによって快適さと安全性を高めています。

ウインドーはすべてパワーウインドー、また、ドア、ラゲッジ・コンパートメント、燃料タンク・フラップには、セントラル・ロック・システムを採用。つまり、BMW635CSiのインテリアは、いわば砦のごとく堅牢な守りをも備えているのです。

オプションで世界で1台の車作り。

BMW635CSiは様々なオプション類をご用意し、オーナーの個性を最大限に活かせるようになっています。たとえば、モータリングの快適さをいっそう深めるチルトアップ機構付きのスライディングルーフ(特別仕様車には標準装備)、洗練されたスタイリングをさらに際立たせるメタリック塗装などをご用意しています。これらはより充実したモータリング・ライフを楽

しんでいただくための、わずか2つの例に過ぎません。もちろん、オプションが無くても、必要と思われるすべての機能を装備しています。静粛性と快適性に満ちた車内、そしてエンジンはバワフルさと完璧なまでの滑らかさを備えています。

心からくつろげるシートと、サラブレッドのようなダイナミックな走り。これこそ、BMW635CSiの特質なのです。まさに、アートの域にまで高められたクーペだと言えるでしょう。



後部座席の贅沢。贅沢さと快適さを体験できる後部座席。標準装備のエアコンディショナーによって、快適さはより大きく。

熟練技術の冴え。熟練したクラフトマンの手によって、一針一針縫製された車内のレザー。最高品質の素材を使い、洗練された格調と優れた耐久性を実現。

特別仕立ての車。特別仕様車はメモリー機能付き電動式シートを装備。ドライバーの理想的なシートポジションを3タイプ記憶。ドライバーがボタンを押すだけで、すぐに最適なポジションを設定可能。



BMW M6: 奥深い走りの醍醐味を伝える、 モータースポーツの直系。

BMW M6のラジエーター・グリルに取付けられたMマークは、BMW社モータースポーツ部門のシンボルカラーで彩られ、本物の実力に裏付けられた強靱なパワーユニットの存在を示しています。

**数々の記録を樹立した、
レーシング・チームによる設計・生産。**
モータースポーツ通を自認されている方ならば、おそらくBMW M6のエンジンの基本的な

仕様について、充分に熟知されているでしょう。3.5ℓの排気量、24バルブ、260ps/6,500rpmという数字が、その強大なパワーを語ります。ボンネットに収められた直列6気筒24バルブDOHCエンジン、それは伝説的なM1のパワーユニットを継承し、さらに磨き抜いたものです。BMWはM1のエンジン・テクノロジーをM6に投入するに際し、そのすべてを洗練させ、完成度を高めました。そのひとつの例が、先進

のエレクトロニクス制御技術の導入です。これによって、定評あるパワーと、画期的な高効率の統合に成功しています。さらにトルク・カーブも一段と滑らかになり、エンジンはあらゆる回転域で的確なレスポンスを示します。しかし、どのように洗練されようと、このモデルはM1と同様に、過酷なレース場で鍛えられたという伝統を継承しています。その事実が、エンジンのスペックにも明確に表われています。ダブル・オーバーヘッド・カ

ムシャフト、6基のショート・インテーク・ファネル、6個のスロットル・バタフライ、F1と同様の燃焼室、スプリット・インテーク・マニフォールド、そしてバルブカバーとエアフィルター・ハウジングに描かれたMパワーの文字が、血統の確かさを表わしています。つまり、このエンジンは、モータースポーツの世界に情熱を注ぎ、大きな成果を手にしてきたBMWの新たなシンボルなのです。

のエンジン・テクノロジーをM6に投入するに際し、そのすべてを洗練させ、完成度を高めました。そのひとつの例が、先進のエレクトロニクス制御技術の導入です。これによって、定評あるパワーと、画期的な高効率の統合に成功しています。さらにトルク・カーブも一段と滑らかになり、エンジンはあらゆる回転域で的確なレスポンスを示します。しかし、どのように洗練されようと、このモデルはM1と同様に、過酷なレース場で鍛えられたという伝統を継承しています。その事実が、エンジンのスペックにも明確に表われています。ダブル・オーバーヘッド・カ

ムシャフト、6基のショート・インテーク・ファネル、6個のスロットル・バタフライ、F1と同様の燃焼室、スプリット・インテーク・マニフォールド、そしてバルブカバーとエアフィルター・ハウジングに描かれたMパワーの文字が、血統の確かさを表わしています。つまり、このエンジンは、モータースポーツの世界に情熱を注ぎ、大きな成果を手にしてきたBMWの新たなシンボルなのです。

を伝えます。言うまでもなく、サスペンションは並み外れたパフォーマンスに対応させるべく、特別なチューニングが施されています。タイヤは高性能エンジンに合わせてワイドなタイプを採用。そして鍛造製のライト・アロイ・ホイールが、ブレーキング時に発生する熱を効率良く拡散させます。車内においては、BMWスポーツ・シート採用により、最適なドライビング・ポジションを確保しています。シートは高低と前後の調整ができ、大腿部のサポートによって、どんな体格のドライバーにもフィットします。サイドのサポート力も優れており、常にゆとりあるドライビング・ポジションを提供することができます。以上からもお分かりのように、BMW M6はグランド・ツーリング・クーペの理想を満たすために作られた車です。この究極のクーペは数々の傑出した特長を、

見事なまでのハーモニーで統合しています。時を超えたスタイルと、レーシング・テクノロジーの調和。日常使用する際の信頼性と、深味のあるパフォーマンスの融合。そして長距離走行時の快適さと、圧倒的な加速力の一つに統合し、オール・ラウンドな卓越性を発揮します。

24バルブのパワーユニットを搭載し、驚異的なパフォーマンスを発揮するBMW M6の真価は、単なる言葉やデータだけでは語り尽くせません。それは、BMW社のモータースポーツ部門が名声と威信をかけて作り上げた、頂点のクーペだけに許された希有のダイナミズムです。

1955年にBMWが503クーペを発表し、全世界から称賛をもって迎えられた時、モータリングの世界に「未来を先取りする伝統」という新しいコンセプトが生まれました。つまり、BMW 503クーペは、スタイリングにおいても、テクノロジーにおいても遙か未来を先取りしていたのです。そして、BMW 503クーペによって生み出されたスピリットは、現在のBMW 635CSiおよびM6にも脈々と継承されています。それは車を一目ただけで、モータリングの喜びがひしひしと伝わってくるスピリットです。

いつの時代も変わらぬ個性尊重主義。

BMWは、その輝かしい長い歴史において一貫して変わらぬ原則を持ちつづけてきました。それは、卓越した工学テクノロジーと、上品

で控え目なスタイリングを統合することであり、この原則を具現している車がBMWクーペなのです。この私たちの思想は、長い歴史に育まれ、今また、新たな未来を示唆しています。これまでと同様に、今日でもこの典型的なBMWスタイルの基調は、スポーティ・ダイナミズムと超高級自動車工学思想、そして、その品質の良さをコンセプトとしています。この私たちのコンセプトは、車に高い見識を持ち、最高級のスタイリングと性能を望む人々に受け入れられてきました。そのような人々は、他の人と一線を画すかのようにBMWクーペを選んだのです。

厳格なチェックによって高品質を獲得。

BMWクーペの高い信頼性は、先進的な空気熱学テストセンターによっても保証されて

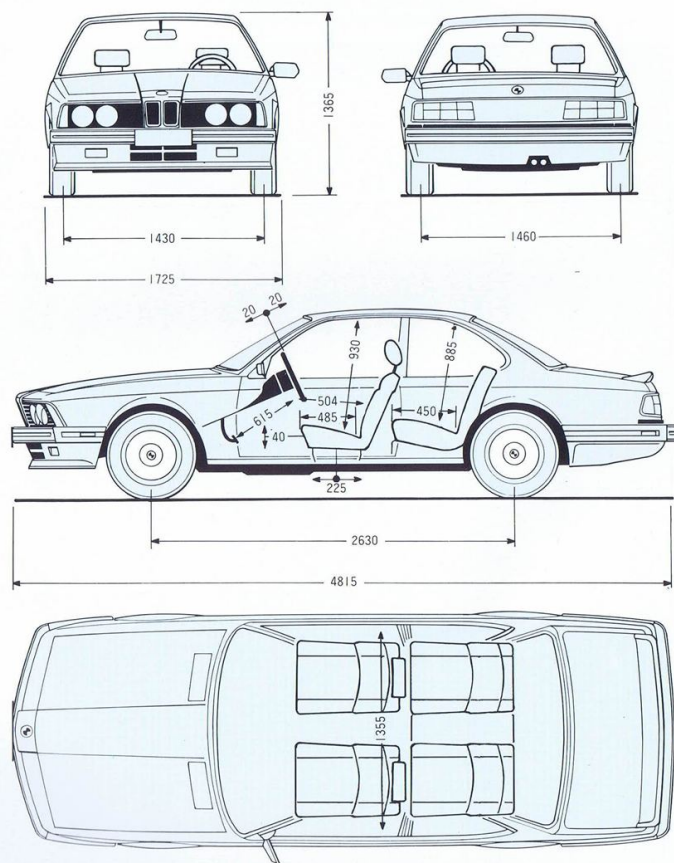
います。この研究施設では、パーツが真夏の7月に時速75マイルの風雪に曝されたり、プロトタイプ・モデルが700万マイルにおよぶ過酷な走行条件を課されたりしています。BMWクーペは精密部品として、すみずみまで品質チェックを受けます。厳格な品質検査官が合格のサインを出さない限り、BMWクーペは生産ラインを出ることが許されないのです。エンジン組み立てにおける許容誤差範囲は、人間の髪の毛の太さの5分の1という厳密さが要求されます。ボディの防錆処理は37ステップ、個々の車に対するスポット・チェックは7,000ステップにも及びます。このような完全主義に則ってチェックが行われているからこそ、BMWクーペは大きな安心と信頼をお約束できるのです。

常に遙か未来を先取りし、 伝統を形成してきたクーペの系譜。



635CSi

主要諸元



主要諸元

●車種記号	635CSi
●寸法	2ドア
全長 mm	4,815
全幅 mm	1,725
全高 mm	1,365
ホイールベース mm	2,630
トレッド(前) mm	1,430
トレッド(後) mm	1,460
室内長 mm	1,695
室内幅 mm	1,335
室内高 mm	1,110
●車重・定員	
車両重量 kg	1,580
定員 名	4
車両総重量 kg	1,800
●性能	
最小回転半径 m (車体)	5.5(6.0)
●エンジン	
型式	3.34M.JI
総排気量 cc	3,430
圧縮比	9.0
最高出力 ps/rpm(DIN)	211/5,700
最大トルク kg・m/rpm(DIN)	31.1/4,000
燃料供給装置	L ジェトロニック電子燃料噴射装置 + デジタル・モーター・エレクトロニクス(DME)
燃料/タンク容量 ℓ	無鉛レギュラーガソリン/70
●動力伝達装置	
クラッチ	トルクコンバーター(ロックアップクラッチ付)
トランスミッション	前進4段 後退1段 フル・オートマチック 電子式油圧制御システム・プログラム・セクター付 フロアシフト
●操作方法	
変速比(1速)	2.478
変速比(2速)	1.478
変速比(3速)	1.000
変速比(4速)	0.728
変速比(後退)	2.090
最終減速比	3.910
●操向装置	
ステアリング形式	ボールナット式/パワー・ステアリング
主ブレーキ形式(前)	ベンチレーテッド・ディスク
主ブレーキ形式(後)	ディスク
制動力制御装置	アンチロック・ブレーキング・システム(ABS)
ブレーキ倍力装置	油圧倍力式
駐車ブレーキ	機械式(内部拡張式)
●タイヤ/ホイール	
タイヤ	225/60 VR15
ホイール	7J×15アロイ

●本仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

●本カタログ中の記載及び写真には日本仕様と異なるものもあります。また、一部オプション、特別注文も含まれます。

635CSi

ボディ

2ドア・クーペ
フロア部に溶接されたオールスチール製モノコックボディ
ねじれ剛性の高いセーフティ・セル
プログラムされた形状変化特性を持つ前後のクラッシュ・ゾーンと衝撃吸収ボックス構造
一体型ルーフ・クロスバー
70ℓ燃料タンク

エンジン

SOHC水冷直列6気筒エンジン
軽合金シリンダー・ヘッド
クロスフロー式半球型燃焼室
エンジン回転数感応式サーモスタット付冷却ファン
第3世代DME/デジタル・モーター・エレクトロニクス
高耐久性エキゾースト・システム(デュアル・マフラー、デュアル・テールパイプ)

シャーシ/トランスミッション

ダブルジョイント・スプリングストラット・フロントアクスル
スリープバック角13度のセミトレーリング・リヤアクスル
アンチダイブ機構
アンチスクワット機構
ツイン・スリーブのガス・ショックアブソーバー(フロント/リヤ)
エンジン回転数感応式パワー・ステアリング
ベンチレーテッド・ディスク(前)/ディスク(後)ブレーキ
225/60VR15タイヤ、7J×15アロイホイール
非アスベスト・ブレーキパッド
油圧式ブレーキサーボ
ABS/アンチロック・ブレーキング・システム
トルクコンバーター式電子油圧制御システム4速フルオートマチック・トランスミッション(E/S/3、2、1、ダイレクト・シフト・プログラムセレクト付)

エクステリア

4灯式丸型ヘッドライト
バンパー下部の埋込形式フォグランプ
フロント&リヤ・プラスチック・バンパー(最大4km/hまでの衝撃吸収ダンパー付)
リヤ・スポイラー
リヤ・コンビネーション・ランプ
ガス圧ダンパー付エンジン・フード
熱吸収グリーン・ガラス
ヒートッド・ドアミラー
ドアロック
ウインドーウォッシャー・ジェット

インテリア

電動フロント・シート
皮巻きスポーツ・ステアリングホイール
ベロアカーペット
トランク容量413ℓ、トランク・リッドに収納されたツール・キット

電気系統

楕円型反射鏡式ロービーム及びフォグランプ
SI/サービス・インターバル・インジケータ
EC/エネルギー・コントロール
アクティブ・チェック・コントロール
ステアリング・コラムからリモート・コントロールできる、第3世代オンボード・コンピュータ
フロント及びリヤのパワー・ウインドー
リヤウインドー・ヒーター
エアコンディショナー
後部座席用エアコンディショナー
外気温警告チャイム
インストルメント・パネル照度コントロール
クラッシュ・センサー付集中ドアロック・システム
AM/FMステレオ・カセット・システム
CDオート・チェンジャー

BMW Japan Corp.正規代理店で、信頼性豊かなサービスを。

BMW Japan Corp.正規代理店では、ドイツ本社が日本の気候や道路事情に合わせて改良を加え、優れた数々の標準装備を採用したBMW車をご用意しています。また、先進のテクノロジーを搭載した車にふさわしい、革新的なオート・ローンおよびリース・プログラムも導入しています。皆様のライフスタイルを際立って個性的に表

現するBMW車の真価を、ぜひBMW Japan Corp.正規代理店でご体験ください。全てのスタッフは情熱と誠意を持って、仕事と取り組んでいます。ご購入方法からアフターサービスまで、お気軽にご相談ください。

オーナー・ニーズに応える、高度なサービス体制。

BMW車の優れた個性を100%引き出し、そのデイトを十分に堪能していただくには、クオリティの高いアフターサービスが必要です。BMW Japan Corp.正規代理店では、ドイツ本社と同じシステムで厳格な教育訓練を受けたメカニックを配置し、あらゆる状況に対応できるよう努めています。

また、470種類に及ぶ専門工具を使用するなど、卓越した車にふさわしい、優れたメンテナンス体制を作り上げています。さらに、サービスの信頼性を高めるべく、コンピュータを使った専用テスターを導入し、複雑なメカニズムの状態を瞬時に判断できるようにしています。全国に広がったBMW Japan Corp.正規代理店のネットワークが、皆様のモータリングライフを力強くバックアップいたします。

確実に、しかもスムーズな、純正パーツ供給体制。

また、サービスの質は技術だけでなく、交換パーツの品質によっても左右されます。BMW Japan Corp.では純正パーツを安定して供給できるよう、年ごとに体制を強化しています。そのひとつの成果が約15億円を投じて、千葉県松尾台に建設したBMW総合サービス・センターです。

この敷地面積26,458m²の規模を誇るセンターでは、先進のコンピュータ制御システムを導入し、効率化を図っています。現在では、各サービス拠点からの要求に対して、通常の場合なら、96%のパーツを24時間以内で供給できる即応体制を確立しています。

オーナーの方に安心と信頼をお約束するために、BMW Japan Corp.と正規代理店は一体となって、これからもより優れたサービス体制作りを進めていきます。



